

四国 津賀ダム強制徴用工犠牲者追悼10年 「平和の礎を位置づける」

[編集者]

韓日関係が悪化の一途をたどっている。日本は韓国最高裁の強制徴用賠償判決の経済報復措置として韓国の貿易の輸出規制を強化したのに続き、ホワイト国（輸出審査優遇）除外を行った。

このような状況下でも、戦争の痛みと強制徴用犠牲者を忘れぬ日本人たちは、安倍政権に向かって警告する。歴史認識を共有し、友情の連帯がこれまで以上に必要な今、**News1**は、これらの揺るぎない平和への動きにスポットを当て、関係改善のための解決策を考えていきたい。

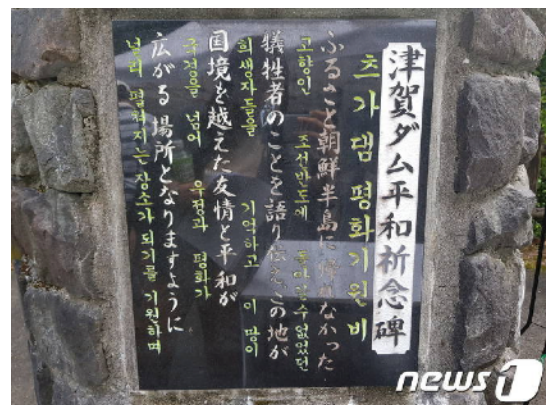


8月4日午前11時ごろ、高知県高岡郡四万十町下道地区にある津賀ダム平和祈念碑前で日本人が強制徴用犠牲者を追悼するために献花している

(News1 チョ・アヒョン記者) 午前中、日本でも30度を超える暑さが猛威を振るった。4日午前10時ごろ、四国（高知県津賀ダム）に動員された強制徴用韓国人犠牲者慰霊式典に、下道(しもどう)地域住民や四万十町職員など、40人余りが集まった。

日本政府の韓国に対する貿易の輸出規制強化措置により、日韓両国の関係がこれまでになく凍りついているが、過去10年間着実に慰霊に参加するなど、津賀ダム強制徴用犠牲者について知る地域の人々は、凍りつく日韓情勢にとらわれることなく席をともにした。

炎天下、参加者の額とシャツはすぐに汗でにじんだ。高知県 高岡郡 四万十町 下道(しもどう)地区の幾重にも曲がりくねった1車線の道路沿いに、「津賀ダム平和祈念碑」が建っている。石塔の下には地蔵があり、記念碑の隣には、日本の高校生たちが平和を祈った陶板がついている。そびえ立つ木のポール(ソツテ)の上にカササギ像をかかげ「魂が故郷に帰れるよう」意味を込めたという。祈念碑をよく見ると、字を手書きし、一つ一つ石を積み上げた心がにじみ出ており、故国の地を踏むことなく、軍国主義に命を落とした強制徴用犠牲者たちを追悼している。



高知県の津賀ダムに強制連行された朝鮮人たちの追悼のため、2009年8月に建てられた津賀ダム平和祈念碑

津賀ダム平和祈念碑には「故郷の朝鮮半島に帰ることができなかったの犠牲者を語り伝え、この地が国境を越えた友情と平和が広がる場所となることを願って」と日本語とハングルで書かれている。

この日は、平和祈念碑建立10周年になる日だ。2009年8月の祈念碑建立式典では、まるで空が崩れるように激しい雨が地面を濡らした。強制徴用被害者の「恨」（ハン）の混じった涙をこぼすような豪雨だったという。その日を思い浮かべる多くの地域住民は、10年めのこの日、快晴の空を眺めながら強制徴用犠牲者の冥福と、同じ悲劇が起こらないことを願った。

この日の行事に参加した「幡多ゼミ」顧問である山下正寿さん(74)は、「20年に渡って続いてきた韓日高校生交流が、今日韓の状況下においても続けることができたことこそ重要である」とし、「地域と民間団体の多くの人々の協力で行うことができた」と語った。

「幡多ゼミ」は日本の高校生サークルで1983年に作られた後、自発的に津賀ダム強制徴用に動員された朝鮮人犠牲者と朝鮮人の無縁墓を調査を始めた。以後記念碑を建設するまで聞き取り調査を進め募金活動をしながら、地域住民、自治体、津賀ダムの電力会社などを説得してきた。

式典には、幡多ゼミに協力を惜しまず、毎年行われる強制徴用犠牲者慰霊祭に出席してきた山本安弘さん(四万十町大正地域振興局長)と20年以上朝鮮人の無縁墓を管理していた中平吉男さんなど、多くの人々が参加した。

山本哲資さん(津賀ダム平和祈念碑10周年記念式典実行委員長)は「この祈念碑は、幡多ゼミ高校生の20年にわたる聞き取り調査と津賀ダム工事の調査の結晶」とし、「平和と友情の絆が永遠に結ばれ、二度とこのような間違いと戦争を繰り返さないことを、皆さんと一緒に誓う」と述べた。

周辺の心配の中で日本に行くことさえ容易でなかった状況をのりこえ、韓国の女子高生4人が7時間以上列車を乗り継ぎ、四国南端の地で式典に参加した。韓国女子高生たちは式典で、強制徴用犠牲者の慰霊ため、故国の民謡アリランを歌った。全国各地の伝統アリランと最新K-POPをリミックスした防弾少年団の歌であった。無伴奏でもブレない学生たちの力強い声と情熱に満ちた顔に参加者は明るい笑顔を浮かべた。

釜山ブギョン高校1年生のコン・ソヒョンさん

(16)はこの日の挨拶で「たとえ今は微力であっても、平和と共生の波がこの世に溢れるよう、草の根の民間外交を広げていかなければならない」とし、「ここ津賀ダムは過去の傷痕を癒し、平和と共生の未来へ導く架橋であり、今後10年、100年後にも追悼の儀式が受け継がれ、両国にとって共生的で平和な未来がくる事を祈る」と述べた。



平和祈念碑建立10周年記念式で山本哲資さん(実行委員長)が挨拶



釜山から来た高校1年生のハンジュウン(左から)、コンソヒョン、ユンゴウン、ソンヒョンが4日、津賀ダム平和祈念碑建立10周年記念でアリランを歌う

この日の式典に参加した宿毛市議会議員の今城隆さん（58）は「徴用工の人々の人生や平和祈念碑のことを深く理解し、人々に伝え広げる教育が必要だ」とし、「これを受け取る人（日本人）も、政治的な先入観を持たずに一人の人間として受け入れる姿勢が必要だ」と強調した。

また、「韓日関係をよく言わない政治家たちは、特定の目的によってすべてを制御しようとする状況」とし「このような状況に左右されずに、人々が自分の考えを堂々と話すことができる日を一日も早く作ることが私たちの役割だと思っている」と力説した。

林瑞穂さん(四万十町教育委員会生涯学習課長)は「実行委員長である山本先生から津賀ダムに強制徴用韓国人犠牲者が動員された話を聞くようになった」と「被害者の魂が安らかに眠るよう祈りながら献花した」と述べた。また、「今、韓日関係が良くないが、友好関係が続くことを心から願う」と付け加えた。

四万十町議員に出馬し、今年2月に当選した村井まなさん（32）は、閉会の辞で「津賀ダム強制連行の歴史を初めて接したのは16歳のときだった」とし「幡多ゼミに参加し、私の故郷の歴史を発掘していく過程で、教科書では学ばない想像することもできなかった事実が、私たちの生活に直結しているということが分かった」と強調した。それとともに「津賀ダムの聞き取り調査をするたびに、下道地区住民の方々が私を暖かく迎えてくれたことを覚えている」とし、「この慰霊碑は、私たちが今後どのように生きるべきかを語りかける」と述べた。続いて「今日の式典は、国境を越えて互いを尊重し理解し合うことで、平和の基礎を固める第一歩になるだろう」と付け加えた。

式典終了後も、下道地区住民は強制徴用犠牲者を追悼する祈念碑周辺を、最後まで丁寧に掃除していた。



4日午前、津賀ダム平和祈念碑建立10周年記念式典が終わった後、地域住民が、最後まで残って掃除していた